

が、先述の規格制定に伴い、大量生産の実現とメーカー間の製品競争により急速に価格を下げつつある。いまではパソコンに接続する無線LANカードで8000円程度、無線LANカードからの電波通信を受信して中継するアクセスポイントも1万6000円程度で購入できるようになってきている。

こうした「高速化」と「低価格化」の進行によって、無線LANが急速に普及したのだ。

無線LANの利用方法

無線LANは、有線ネットワークと無線の中継基地となる親機（アクセスポイント）と、クライアントとなるパソコンなどに設置して無線通信を行う子機で構成される。

アクセスポイントは複数の子機からのアクセスを受信、子機同士を中継するほか、RJ-45などのイーサネットへの接続コネクタを保有、社内既存有線LANへの接続を行う。子機は形状としては小型無線機のようなものやパソコンに組み込むポードタイプの製品などがある。最近ではノートパソコンの普及に対応しカー

ある社員がそのパソコンを使ってWeb等を参照している間は他の人は自分宛のメールの着信を確認できない。また、プリンタに接続されたパソコンが一台しかない場合、書類や資料の印刷の順番待ちをしなくてはならない。

こうした課題を解決する手段が「ネットワーク化」、すなわち「LAN」通信については、提供される速度を無線ネットワークに接続されているクライアント・パソコンで分け合う形となる。よって1アクセスポイントあたりに接続できるクライアント台数は、ネットワークの利用形態によっても大きく変わってくる。

メールなどのデータであれば数十台程度の接続も可能であるが、画像などサイズの大きいデータを無線LAN上でやり取りする場合は接続台数を一台台にとめておいた方が無難であろう。

低コストで容易なネットワーク構築を実現する無線LANは、広範囲にわたる通信が可能であり、壁などの遮蔽物に影響しないといった利便性を提供する反面、情報の漏洩や盗聴などセキュリティに対するせい弱さが課題として挙げられてきた。しかし最近では暗号化やユーザーを識別するためのさまざまな技術が開発されており、無線LANに対するセキュリティ上の不安点は払拭されつつある。

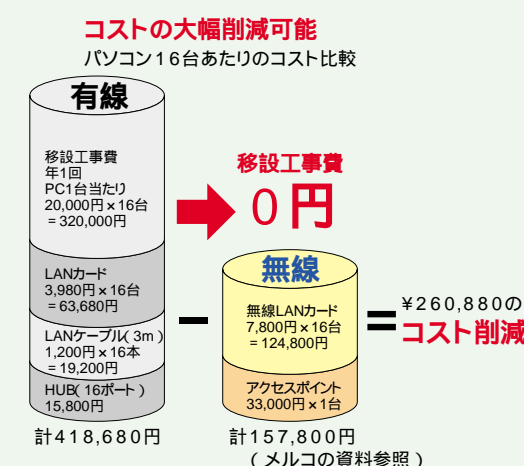
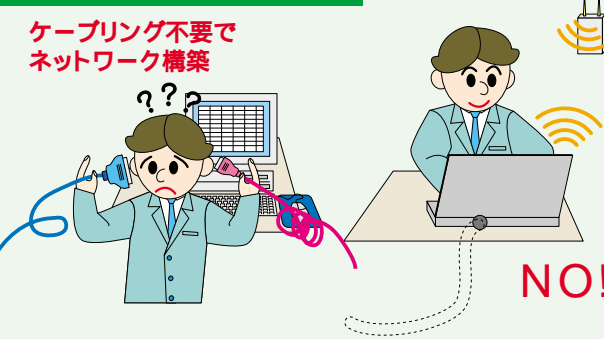


使うと便利

無線LAN

企業オフィスや家庭で導入が進む「無線LAN」。ネットワーク構築のための最有力手段として急速にクローズアップされている。無線LANが提供するメリットと導入時の注意点を探っていこう。

無線LANのメリット



場所を問わず、簡単かつ高速なネットワーク構築を実現する無線LAN。新規ネットワークの構築に際しては有効な手段の一つとなるだろう。

無線LANが注目される理由は、ケーブルを用いずにネットワーク構築ができる、レイアウト変更や配置転換が容易に行える、オフィス内で自由に移動できる、コストの大幅削減が可能 等のメリットがあるためだ。

ケーブルレスで自由に移動

ここで注目を浴びているのが「無線LAN」である。無線LANはその名が示すとおり、物理的な配線を行わずとも電波通信によってネットワークの構築を可能とするものだ。

(Local Area Network)の構築である。オフィス内のパソコンを、LAN構築で用いられるイーサネットケーブル等を用いて接続することで、複数のパソコンから同時にインターネットへアクセスしたり、プリンタを利用することが可能となる。最近ではオフィスだけではなく、家庭内ネットワークを構築するケースも多く見られている。

こうしたメリットに加え、無線LANが急速に普及している要因には「高速化」と「低価格化」の

さらに最近になってからは「IEEE802.11a」という新規格に基づいた製品群も登場しており、11Mビット/秒を大幅に上回る54Mビット/秒を実現する無線LAN製品も登場している。

